

2. 赤いウィーンの労働者オリンピック・1931年

上野 卓郎

2009年12月のウィーン資料調査での同時代新聞収集と既に収集していた資料に基づく研究報告である。

I. 資料

<同時代刊行物>

- ① Julius Braunthal (Red.), Festschrift zur 2. Arbeiter-Olympiade Wien 1931. Wien 1931.
- ② Alfred Finkler (Hrsg.), Stadion Nr.3. Sonderausgabe Arbeiter Olympiade. Wien 19.-26. Juli 1931. Wien 1931.
- ③ Beckmanns Sport-Lexikon A-Z. Leipzig-Wien 1933. <Arbeiterolympiade>(S.160 f.), <Sozialistische Arbeitersportinternationale>(S.2075f.), <Spartakiade>(S.2083 f.), <Wien>(S.2452f.)

<同時代新聞>

- ④ Arbeiter Zeitung. 2.7.1931.S.8, 11.7.31.S.10, 12.7.31.S.5, 16.7.31.S.8, 17.7.31.S.6, 19.7.31.S.3,4,8, 24.7.31.S.7, 26.7.31.S.1, 5.
- ⑤ Das Kleine Blatt. 21.7.1931.S.6, 22.7.31.S.5,6, 23.7.31.S.1,2, 27.7.31.S.1.
- ⑥ Neues Wiener Tagblatt. 20.7.1931.S.5, 22.7.31.S.10.
- ⑦ Neue Freie Presse. 19.7.1931.S.16, 27.7.31.S.6.
- ⑧ Sport Tagblatt. 18.7.1931.S.1, 28.7.31.S.1.

<先行論文>

- ⑨ Reinhard Krammer, Der ASKÖ und die

Wiener Arbeiter-Olympiade 1931. in: H.J.Teichler, G.Hauk (Hrsg.), Illustrierte Geschichte des Arbeitersports. Berlin-Bonn 1987, S.207-221.

<資料集>

- ⑩ Helene Maimann (Red.), Mit uns zieht die neue Zeit. Arbeiterkultur in Österreich 1918-1934. Eine Ausstellung der Österreichischen Gesellschaft für Kulturpolitik und des Meidlinger Kulturkreises. 23. Jänner- 30. August 1981. Wien 1981.
- ⑪ Stefan Riesenfellner, Josef Seiter, Der Kuckuck. Die moderne Bild-Illustrierte des Roten Wien. Wien 1995.
- ⑫ Helene Maimann (Hrsg.), Die Ersten 100 Jahre. Österreichische Sozialdemokratie 1888-1988. Wien 1988.
- ⑬ Paul Nittnaus, Michael Zink, Sport ist unser Leben. 100 Jahre Arbeitersport in Österreich. Wien 1992.
- ⑭ Josef Strabl (Hrsg.), Wir Sportreporter. 100 Jahre österreichische Sportpresse. Wien 1980.
- ⑮ Hans Hofstatter (Red.), Wiener Sportstätten. Wien 1986.

<運動史>

- ⑯ Hans Gastgeb, Vom Wirtshaus zum Stadion. 60 Jahre Arbeitersport in Österreich. Entstehung und Entwicklung der österreichischen Arbeiter-Turn- und Sportbewegung. Wien 1952.
- ⑰ Reinhard Krammer, Die Arbeitersport-

bewegung in Österreich. in: A.Krüger, J.Riordan (Hrsg.), Der internationale Arbeitersport. Köln 1985, S.85-102.

- ⑱ Ebenda, Arbeitersport in Österreich. Ein Beitrag zur Geschichte der Arbeiterkultur in Österreich bis 1938. Wien 1981.
- ⑲ Helene Maimann, Zum Stellenwert der Arbeiterkultur in Österreich 1918-1934. in: Brigitte Galanda (Red.), Konferenz: Arbeiterkultur in Österreich 1918-1945. Hrsg.von der Internationalen Tagung der Historiker der Arbeiterbewegung. Wien 1981, S.17-23.

<同時代指導者著作>

- ⑳ Julius Deutsch, Unter roten Fahnen. Vom Rekord- zum Massensport. Wien 1931.

<近年の注目すべき著作>

- ㉑ Roman Horak, Wolfgang Maderthaner, Mehr als ein Spiel. Fußball und populäre Kulturen im Wien der Moderne. Wien 1996.
- ㉒ Matthias Marschik, <...im Stadion dieses Jahrhunderts> Die 2. Arbeiterolympiade in Wien 1931. in: Christian Koller (Hrsg.), Sport als städtisches Ereignis. Ostfildern 2008. S.189-210.

「赤いウィーン」については、田口晃『ウィーン 都市の近代』岩波新書、2008年、特に「第三部 赤いウィーン」参照。英文では、Helmut Gruber, Red Vienna. Experiment in Working-Class Culture 1919-1934. New York/ Oxford 1991.

II. 労働者オリンピックのウィーンへの委託

1. SASI 第4回総会（1927年、ヘルシンキ）ユリウス・ドイチュがSASI会長に。ここでウィーンへの委託（ミュルツツシューラクの冬季競技会も）。1925年の第1回「フランクフルトの競技会をできる限り上回る」よう要求。（Vgl.⑱）

ASKÖ：1931年統計でほぼ25万人、絶対数でドイツに次ぐ第二の大きさ、相対的には最強の労働者スポーツ組織。（Vgl.③）

「次のオリンピックがウィーンで行われるが、そこでは我がオーストリアの同志がファシズムの反動と交え、引き続き交えている戦闘において国際プロレタリアートはその不屈の強さを頼りにすることができるということを実証した、ということを見ると社会民主主義全体は幸せである。」（①）

委託にとって決定的だったのは、ウィーンの世界民主主義的インフラ（赤いウィーン）。総会中にウィーン市参事、ASKÖ代議員ユリウス・タンドラーが新しいスタジアム建設を約束。

2. 開催時点でのオリンピックの位置づけの変化：社会主義への一歩よりも、全ての反動の防御のために必要な措置を取るプロレタリアートの決意のデモンストレーションの機会に。（Vgl.⑱）これが行事そのものの構想も特徴づけた。トゥルネン大衆演技、祭典式辞、競技会の背後に、オーストリアとヨーロッパに登場しているファシズムに労働者運動の勇敢な国際的連帯を対置する意図。（Vgl.⑨）
- オーストリア社会民主主義の危機：1927年から政治的、（準）軍事的レベルで防衛に。反民主主義的なハイムヴェア（護国団）の強化、警察と国防軍における国家的な権力位置の漸次的喪失、さらに1929年以来の世界経済恐慌の直接・間接の帰結。

オーストリアの3方面の国境の向こう側：イタリア、ハンガリーのファシズム体制とドイツのナチスの強化。

労働者スポーツの変化：共和国の最初の数年は国際的平和主義に方向付けられたが、20年代の終わりに急速に社会民主主義の防衛構想へのスポーツの編入（少なくとも男子青少年のスポーツ生活の準軍事的統制）が生じた。共和国防衛同盟の防衛スポーツ小隊、偽装組織に突然変異するスポーツ・トゥルンフェライン、スポーツ活動の隠れ蓑での準軍事的訓練。

3. ウィーン・スタジアムの建設：1929年着工、1931年完成。プラターに。

既存の大スポーツ・プラッツ：ホーエヴァルテ（約8万収容）、WACプラッツ。

— ブルジョア的コノテーション。イデオロギ的、建設上の前提から労働者オリンピックには不適切とされた。（Vgl.⑩）

シンメリンク・プラッツ（4-5万収容）— 1920年に労働者・兵士スポーツフェライン連盟（ASKÖの前身）の支持で仕上げられ、1920年と24年の間に州対抗・都市対抗競技にも利用。唯一対象に。しかし余りに中心から離れていた。

2年の建設期間の後、プラターにメインスタジアム、自転車スタジアム、水泳スタジアム完成。オリンピックの1週間前、ウィーンとニーダーエスターライヒの労働者フットボールの競技会とブルジョア的陸上競技選手権で開会。市行政はスタジアムの姿において「ヨーロッパの全てのスポーツ施設で最も美しいもの」を建設したが、それは同時に「我々の時代の象徴的形象」であり、「我が赤いウィーンの実に多い建設作品のそれ」である。（④ 11.7.1931,S.10.）

III. 開催：プログラムと実際、同時代新聞の報道

1. ミュルツツーシュラクでの冬季競技会（2/5-8）：265人の選手での質素な行事。

ウィーンでの夏季行事（7/19-26）：77166人の祭典参加（25000人がスポーツマン、残り

はトゥルネン大衆上演者）、オーストリア 37000人、ドイツ3万人、チェコスロヴァ

キア7000人。（vgl.③）20万の観客。（vgl.⑩）
⑩） オリンピアードのプログラム：他の労働者スポーツ祭典と異ならない。政治的式辞と祭典パレード、スポーツ競技とトゥルネン大衆演技の混合で構成。

スポーツプログラム（117の決勝）：スポーツのブルジョア的大行事とほとんど区別されず。中心はトゥルネン、フットボール、ファウストボール、ハンドボール、陸上競技、水泳、自転車競技で、全てプラター・スタジアムとその周辺部、自転車走路、スタジアムプールで実施。トゥルナーの大衆演技、防衛同盟の競技（スポーツ射撃、防衛スポーツ競技）は近くのロータンダ（円形建築）前で実施。（Vgl.⑩）

2. ドイツによる行事の路線提示：労働者スポーツのための宣伝、その国際的意義、スポーツマンのための刺激というスポーツ的目標、労働者スポーツの達成の呈示、大衆鍛錬に向けられる方法と労働者階級の文化へのその作用を短く要約したのに対して、はるかに詳しく諸民族合意への信奉、世界平和のためのデモンストレーション、ファシズムに対する示威としてのオリンピックの政治的意義を強調。（Vgl.②）

3. 開会前夜・最初のクライマックス：6万のウィーン労働者の前での開会劇の総稽古。4000人の労働者スポーツマンによるプロレタリアートと労働者運動の発展史呈示。巨大

な足場の上に築かれた資本家の頭、「偶像資本 (Götze Kapital)」の倒壊、インターナショナルの共通の歌唱で終結。満員のスタジアム階上席前で4回上演、26万人が見た。(Vgl.⑩、⑨も)

「劇だけか？否、それはそれ以上だった。それは現代演劇のサイズをぶち壊し、芸術作品としてだけでなく、基本的な大衆事象として働く。役者もいず、公衆と呼ばれるものもないという強力なものだった。[...]その巨人の体がスタジアムに抱きついた大衆の心臓の真ん中に全てが生じるのである。」かくて「この類のない上演の成功に第一番に大衆が寄与した。」(④ 19.7.S.8.) —この大衆劇において基本方針に即して個人と集団、アクティヴと観客の間の不一致の模範的止揚が意図された。

4. スポーツプログラムの開始：7月20日朝6時、自転車ロードレース、スタート。エントリー140人のうち35人のみ（ウィーン子以外は6人のポーランド人）。(Vgl.⑥ 20.7.S.5) 午前、「世界子ども大会」の枠内で祭典行列（ラートハウスからシュヴァルツェンベルクプラッツまでのリンクシュトラッセ）、2万の子どもが参加、数百の赤旗を持ってさらにプラターのトラブレンプラッツ（速歩競馬場）に行進。
正午、アポロ・キノで正式の開会。オルガン演奏と合唱の後、政治的立場規定。午後、トラブレンプラッツで大衆上演、スタジアムで子どもと青少年の水泳、トゥルネン上演。
5. 次の週の報道：社会民主主義プレスでは出来事の3つのアスペクトに集中。最も広い範囲をプロレタリア的共同体、連帯と国際友好の叙述が占め、第2位に演説、式典、パレード、とりわけ常に至る所に存在する大衆の壮大さの描写を伴う政治的レベルが続き、第3位に初めてスポーツ的出来事と結果についての報

道。

外国派遣団到着の報道（7月23日まで続く）：「どの駅も数千の人によって取り囲まれ、至る所で歓呼する人垣による音楽、花、行進、喜びに輝いたホスト、飾り付けられた窓—誰がこの圧倒的な印象を逃れることができるだろうか？この時代の恐ろしい困窮を数時間だけ、数日間だけ忘れよう。」(⑤ 23.7.S.2)

学校と労働者家庭でのゲストの宿泊、にもかかわらず8万の訪問者による経済的利益。(Vgl.② S.5) シュヴァルツェンベルクプラッツに設けられた「オリンピアードビューロー」で入場券購入。(Vgl.④ 16.7.S.6) 開会式辞：市長ザイツはブルジョア派との文化的・文化政策的差異を、元初代大統領、国民議会議長レンナーは政治的革新を強調、ドイツだけがスポーツのレベルでの区別に立ち入った。

「我々のオリンピアードは全く違った外見を持ち、資本主義的スポーツ商売のセンセーション上演とは全く違っている。」(④ 9.7.S.4)

6. 雨にたたられたスポーツプログラム：最初の4日間は主に国内的参加の公開競技、子ども・青少年競技、親善試合。4500人の「ローテ・ファルケン」と6500人の「トゥルナーキンダー」のハンドボール、フットボール、ドッジボール、陸上競技、水泳。中心は器具つき、器具なしの大衆トゥルネン上演、輪舞演技。部分的に激しい雨と雷にもかかわらず、5万の観衆の熱狂的な拍手。

「祭典の閉会を祝祭的に—シュプレヒコールと誓約—強く滝のように降る大雨が洗った。だが、風と雷雨と雨と稲妻にもかかわらず、ローテ・ファルケンが、赤旗の森を不快な自然力に突っ張って、もう一度スタジアムを進んでいくのを譲らない！それは素晴らしく美しい青少年祭典の思いがけない、しかも象徴的な閉会だ。我が青少年の優雅さと機敏さ、愉快的な気分と大はしゃぎに敵対的な暴力に勇猛

果敢に立ち向かう反抗的な力のこの自然発生的な開示が続く。」(⑤ 21.7.S.6)

スポーツ的により興味ある競技の大部分は7月23日と26日の間の4日間に。

「今日はオリンピアの主要潮流が期待される。[...] 今日から初めて我がウィーンはまさに本来的にオリンピア都市であるだろう。」(⑤ 22.7.S.5)「今日、闘いが始まる。」(⑤ 23.7.S.2)

このプログラムも、一部は悪天候によって、一部は外国参加者の到着の遅れと別の障害(詳しくは挙げられなかった)によって、繰り返し変更。スタジアムでの競技のいくつかは取りやめに、あるいは多数の延期と移動。水泳はアルテ・ドナウの労働者水浴場で、重競技はトラープレンプラッツに、室内競技は野外で、しかも自転車レース場の内部空間で。

(Vgl.⑥ 22.7.S.10)

にもかかわらず、プラター・スタジアムがその付随施設とともにスポーツプログラムの中心に。赤いウィーンは、すでにオリンピアードの時には、開会から「都市の美を豊かにするもの」として賞賛された建造物を誇りに。

「ウィーン・スタジアムの建設によって[...]

ウィーンはプラターにおいて世界最大のスポーツ用地を自由にする。」「トラープレンプラッツ、ゴルフクラブ、ポロ広場、ギャロップ競馬場の既存の施設をスタジアムに包含することによって、有機的に、スポーツの本拠が成立した。同じ程度に、そして同じ景観的美において世界の他のどの都市も自分のものを挙げず、都市ウィーンのスタジアムがその戴冠と完成を意味する。」(② S.39)

7. 競技に関する社会民主主義メディア報道：一方で、ブルジョア的スポーツ・プレスの報道に接近。スターカルトあるいはセンセーショナルリズムをコピーすることはなかったが、ブルジョア紙のように勝利者の名前を挙げ、結

果リストを公表し、はらはらさせる競技や決勝を強調。多数の写真で、若い、魅力的な、戦う、ついには勝利する男性身体の姿で永久にとどめられる英雄なしには済まず。「労働者英雄の隠喩的な身体がその勝利によって具体化され、自己自身を満たした。」(⑩ S.197) 勝者の姿において個人的身体的自己規定と達成能力がプロレタリア的共同体と労働者階級の勝利と結び付けられた。写真ルポルタージュは女性スポーツマンが重要な位置を占めて出現する場所の一つ。

他方で、オーストリア民族主義に奉仕。『労働者新聞』でさえ民族主義的口調に。「最高成績の記録」だけでなく、多くの記録と勝利が「オーストリア人によって」得られたことの指示。

(④ 26.7.S.5) 特に歓声が上がったのはフットボール。「ブラボー、オーストリア!」。「資本主義的オリンピック競技会のショーヴィニズムに[...]インターナショナルリズムで答える」理想から、実践は相当外れた。(Vgl.⑩ S.219)

結果リストは勝者の名前と並んでその民族性も含み、チーム競技では民族が鼓舞された。スポーツから離れても社交と連帯の報道でナショナルイデーが物を言った。全ての祭典行列において参加者の民族的出自を示威。「区別は一目で認められる。誰もリンクシュトラッセでのイギリスとスコットランドの青少年のグループをドイツ人と間違えることはなかった。

[...]たしかに、いく人かのかわいいイギリスの女性同志が我々に民族規定を困難にするためにオーストリア労働青年の青いブラウスを身に着けることはある。だが、イギリスの女性同志が髪の毛の周りにリボンを結ぶ仕草、あるいはイギリスの男性同志が彼のパイプに火をつける仕草は、我々に一目で民族性を顕わにする。」(④ 24.7.S.7)

8. 閉会行事(7月26日): 祭典参加者によるリ

ンクシュトラーセの赤旗の海への変化。
議事堂そばの社会主義インターナショナルの
平行会合参加者の脇を分列行進、4 時間も。

(Vgl. ⑩ S.70)

「ウィーンとヨーロッパの全ての国からの、
アメリカとオーストリアの地方からの数万の
スポーツマンが赤旗の森の下で行進する。
[...] それは終わろうとしない行進だった。
繰り返し楽団、繰り返し労働者スポーツの大
軍からの新たな部隊、大隊、連隊、師団。そ
れは力強い祭典の力強い閉会であり、同時に
その頂点だった。[...] 資本主義の危機と時
代の困窮にもかかわらず、一切れのパンのた
めの心配と闘争にもかかわらず、我々はこの
世紀のスタジアムで開催された明日のための
闘争を忘れない。昨日プラーター・スタジア
ムの広い円形で行進した者が、世界史のアリ
ーナで、赤旗の炎で、その大衆歩調の轟きと
インターナショナルの勝利の叫びで行進した。
最後の戦闘に！昨日彼らはリンクシュトラ
ーセを征服した。そして彼らは世界を征服す
るだろう！」(⑤ 27.7.S.1)

他の社会民主主義プレスも同様の肯定的評価、
賞賛。

ブルジョア・プレス：意外にも好意的解説。
詳細にスポーツ的結果を報告、閉会の祭典行
列について「巧みな編成と卓越した組織」が
最後の日にも発揮されたと書いた。(⑦ 27.
7.S.6) 批判は、ただスタジアムでの開会祭典
劇に表明されただけ。

「これはスポーツ行事の範囲に属さず、それ
故にまた、全てのスポーツフェラインに引き
渡されるスタジアムの誤用である。祭典劇は
資本と既存の社会秩序の嘲りと、労働を放棄
し資本を倒す要求であった。」(⑦ 19.7.S.16)

スポーツ・プレス：スポーツそのものの獲得
と評価。「一政党が全く自由にできる宣伝装
置をスポーツ祭典に尽くしたという事態は、こ

のように本物のお祭り騒ぎを生み、ほとんど
ウィーン全体を、政治的支持者も敵も、組織
することができたため、たしかに印象深いも
のであった。[...] そうした援軍を自由に
できない何らかの他のスポーツ団体がそのよ
うに力強い成功をもって宣伝活動を貫くこと
はほとんどできないだろう、そして祭典の組
織も、政治から来てそこから大衆政治集会の
アレンジで豊かな経験をもたらした人物以上
に正確さをもって成し遂げられなかったであ
ろうということは認められねばならない。」(⑧
28.7.S.1)

IV. 赤いウィーンと労働者オリンピアード (都市とスポーツの身体的現在化)

1. オリンピアードの中心的エレメントとしての
直接的な身体的現在：
スタジアム・オープニングのさいの市参事タ
ンドラーの言説：スタジアムが青少年に捧げ
られ、彼らは「身体の自由によって精神の自
由を与える」べきだ。(② S.3)
社会民主主義による、身体と大衆をコント
ロールし、組織し、共同の行動に、大衆のリ
ズムに総括し、美学的に構成することができ
たことの実証。「トレーニングされた美しい
身体、階級闘争のために用意」(⑩ S.196)
2. 解体を内包したウィーンの都市像にお
けるオリンピアの身体的現在：
労働者スポーツは、個人レベルでは直接的
スポーツ的にも象徴的にもブルジョア・ス
ポーツより劣り、集団レベルではファシズ
ム・スポーツより劣っていた。「新しい社会」
における「新しい人間」の理想は、常にた
だ「ブルジョア・スポーツに対する質的対
抗モデル」としてのみ考えられ、置き換
えられるもの。それ故、それは、ブル
ジョアのスポーツ理想に結び付けられた
ままで、「この文化運

動の内在的矛盾」の一つを形成した。(vgl.
⑨、特に⑩ S.19)

補注：

田口晃『ウィーン 都市の近代』は全体として優れた内容で、赤いウィーンについても多くの知見を得ることができる。しかし、労働者オリンピックに関する記述に不正確な箇所があることは指摘しておく必要がある。それは、1926年に社会民主党の正式組織となり、ウィーンで3万人を擁した「共和国防衛同盟」の記述の中で示された次の短い記述である。

「小銃や機関銃のほかに小口径野砲も保持するいわば私的軍隊であって、毎年軍事教練を行ない、リング大通りをパレードして力を誇示していたのである。また31年夏には、『防衛同盟』と社会民主党の手でウィーン『労働者オリンピック』が開催され、ヨーロッパ各国から腕に覚えの労働者が参加し、社会民主党と労働者の勢力をヨーロッパ中に見せつけた。」(231頁)

ここでは社会主義労働者スポーツインターナショナルの存在は全く無視され、「共和国防衛同盟」が主体となっている。史実の正確な記述の基礎となる研究成果を示していかなければならない。